

二宮町町民活動推進委員会 第6回議事録

日時：平成22年12月13日（月）16：00～17：00

場所：二宮町役場2階 第1会議室

出席：山内委員長、高橋副委員長、荻野委員、工藤委員、澁澤委員、武井委員、手塚委員、
西尾委員、西方委員、小林委員

欠席：山口委員

傍聴：なし

配布資料（当日配布）

- ・ 会議次第
- ・ 資料1・・・平成23年度に向けた協働まちづくり補助金制度の改善点及び方向性について
- ・ 資料2・・・平成22年度補助金交付団体活動現場確認報告について

- 1 開会（安藤課長より）
- 2 委員長あいさつ（山内委員長より）

事務局：2点お知らせがあります。

- ・ 本日の会議議事録署名人は山内委員長と澁澤委員さんをお願いします。
- ・ 本日は、現在まだ見えていませんが一人傍聴希望者がおります。
（資料の確認）

3 議題

（1）平成23年度に向けた協働まちづくり補助金制度の改善点及び方向性について

委員長：お手元の会議次第に沿って進めていきます。資料1、事務局より説明願います。

事務局：前回の会議時に今年度の補助金制度について委員が感じた改善点を報告して頂きました。

大きく分けて①広報について②相談体制について③協働まちづくり補助金募集要項について、3つございました。その内容を受け、それぞれの現状と今後について事務局の方でまとめました。補助金制度も過去5年を経過する中で、年数の経過とともに申請団体数が減少してきている中で、ご意見を頂きました。

【①広報について】、前回の会議の意見として、申請団体が少ない事が一番の課題であるという中で、申請団体を増やすためにも、「もっと良い広報が必要なのではないか」「町の掲示板だけでなく、タウン紙などにも載せたらどうか」「この制度を知らない団体があるのではないか」というご意見を頂きました。

なお、広報の改善点という点で、現状は町のホームページや広報誌で周知しております。また町民活動サポートセンターにはチラシや募集要項を設置し周知しております。

また、活動現場確認等も昨年から行っておりますが、その報告を視覚的に広報誌でも紹介しております。各委員の意見を受け、タウンニュースやミニコミ紙などにも掲載していきたいと思っております。

人が多く集まる「駅」「公民館」「児童館」などにも積極的にチラシ等を置いて、周知をしていきます。

こちらからの働きかけをという中では、サポートセンターが登録団体の使用できるスペースになっていますが、この登録も毎年新しい団体が申請してきますので、補助金を申請したことが無いような団体に、こちらから積極的に補助金制度の周知をしていきたいと思っております。

【②相談体制について】 説明会の前に気軽に訊けるような場があった方が良いのではという意見を頂きました。現状としては、申請期間内に相談会及び説明会を実施しております。

今後の検討課題ですが、補助金募集期間の前に新しい団体に対して、積極的に過去の事例等を紹介しながら補助金制度を周知していきたいと思っております。実施については、次年度4月から申請期間が始まりますので、可能な限り今年度中に開催したいと考えています。

【③協働まちづくり補助金募集要項について】「書類作成が大変なのではないか」「対象を絞ることも必要ではないか」「ハードルを下げることも必要ではないか」等の意見を頂きました。

制度開始以来、過去5年間の中で、ある程度積極的な町民活動団体については、補助金制度を利用していると思っております。今後は、サポートセンターへの新規登録団体など、意欲のある新たな団体への支援を働きかけたいと考えています。そのためにも、新たな団体が補助金制度を利用しやすいような、補助内容の見直しを提案させて頂きました。

現在、スタート支援・ステップアップ支援と2種類ありますが、主に「スタート支援」の方について見直しをしてきたいと思っております。

補助対象団体としては、今までスタート支援は（設立後2年未満）ですが、見直し案として他の市町村でも事例が見られます（本制度による補助金を受けたことがない団体）としたいと考えています。

補助金額と補助率としては、上限10万円・対象事業費の3分の2となっており、3分の1は自己資金がないと申請できないのですが、見直し案として、上限10万円は同じですが、自己資金が無くとも、対象事業費以内であれば申請できる形に変更したいと考えています。また、ステップアップ支援も見直し、上限50万円・補助率2分の1から、上限30万円・補助率3分の2に変更したいと考えています。

審査選考方法として、スタート、ステップアップ支援とも1次審査で書類選考、2次審査で公開プレゼンテーションとしているところを、スタート支援のみ、2次審査では「公開プレゼンテーション」または「ヒアリング」どちらかを選べる形に見直ししたいと考えています。これは過去のアンケート等から、自分たちの活動内容についてプレゼンテーションをするのは抵抗を感じるという団体もあったという経過があります。どのようなヒアリング方法にしていくかは、今後の議論になるかと思っております。

このような見直し案は、今後、新たな団体にも補助金制度を知ってもらい、自分たちの活動の幅を広げて頂く為の提案になりますので宜しくお願いします。

委員長：何か意見はありますか。

委員：初めての団体は、案内を見てなかなかイメージが分からないと思うので、例えば、Q&Aなどもあれば良いと思っております。

委員長：他にありますか。なかなか、まだ見たばかりで直ぐに意見が出ないとは思いますが。

ステップアップ支援の補助金額と補助率も変更になるとの事ですが、30万円というのは、他の自治体との比較等から、一応の相場として出している金額です。しかし、この額を超える団体が出た場合にどうするかという、これは私の個人的な意見ですが、最初から30万円ありきだとなると、応募する団体はそれで事業を立てる懸念があるというのがひとつ。あと、現況の50万円の2分の1から30万円の3分の2とすると、補助金額が増えるのではないかと思います。よって、3分の2という補助率を活かすのであれば、限度額が30万円というのが妥当なのかどうか検討の必要があるように思います。

委員：予算を超えてはいけませんが、予算内に収まるのなら、受け口を広げてあげたいですね。

事務局：申請額が予算を超えた事はありません。また、基金を活用している状況ですので、申請額によって基金から運用することも可能です。

大きな事業を行いたいという団体に関しては、補助額によって制限されてしまうのではないかと懸念はあります。

委員：ステップアップ支援は利用回数限度を越えたら2度と申請できませんか？「環境保全」という団体の活動はエンドレスなものですよね。そのような団体はある程度継続させるのが大事かと思えます。

委員：団体の活動の幅がありますから、現況限度額50万円のように、間口を広げておいてもいいのかとも思います。

委員：ステップアップ支援は、補助率が2分の1から3分の2になっても、私はあまり変わらない気がします。変更することによって、計算もしにくくなるので、変えなくても良いのではないかと思います。

委員長：スタート支援はかなり見直されたという実感がありますが、ステップアップ支援では大きな変更は感じませんので、スタート支援で受け入れを広げて、ステップアップでは現行通りにするというのも一つの手だと思いますのでもう少し考えてみてください。

9. 審査方法としては、プレゼンテーションまたはヒアリングのどちらかを選ぶものですが、ヒアリングはこちらが主体となって様々な情報を引き出すというもので、プレゼンテーションは自ら売り込むものなのですが、如何でしょう？

委員：ヒアリングを加えたことによって、ハードルが低くなったという感じはしますね。

委員長：何を訊かれるか分からないと、逆に困るという点もありそうです。

事務局：我々もヒアリングは初めての経験になりますので、なかなか想定は出来ないのですが、他の自治体でヒアリングをした事によって申請団体が増えたという事実もあります。

委員長：まずは、試行的に一度、ヒアリングをやってみましょう。問題点があれば改善をしていきましょう。

(2) 平成22年度補助金交付団体活動現場確認報告について

委員長：委員さんが各補助金交付団体の活動現場を確認して頂き、このような資料ができました。

事務局：1団体目は、「民設学童保育を支える会」日時は10月4日（月）。

出席委員は工藤委員、西尾委員、手塚委員の3名です。

2団体目は、「湘南二宮・ふるさと炭焼き会」日時は10月27日（水）。

出席委員は高橋副委員長、澁澤委員の2名です。

3団体目は、「長寿の里国際交流協会」日時は11月7日（日）。

出席委員は山内委員長、西方委員の2名です。

これらの報告書は町ホームページへの掲載や、サポートセンターへ掲示する予定であり、その旨、各団体へも伝えてあります。

下段に予め提出いただいた「出席委員のコメント」があります。訂正、追記等がありましたら、来週の月曜日までをお願いします。

次回会議 平成23年2月14日（月）19：00より

4 閉会（山内委員長より）

17：00に閉会した。

議事録署名人

議事録署名人
